

## 2024年5月5日（日）第二礼拝「二人三人集まる所」マタイ 18章 18～20節

祈りは霊の呼吸です。聖書は「絶えず祈りなさい。」と言っています。私たちの生活の中で絶えず行うのは呼吸です。四十日断食をしても人は生きますが、呼吸が五分以上止まるなら死んでしまいます。祈りとは神様の息(いのち)を受け入れることです。

第一番目、祈りは神の霊を信仰によって受け入れることです。霊は神様の御言葉であり思いです。この神様の御言葉や思いを信仰で受け入れることが祈りなのです。神様は人間をちりから形造り、鼻にルアーク(神の息)を吹き入れられました。呼吸とは、イエス様の十字架の贖いを受け入れること、すなわち神様の全能の力や聖さや愛を受け入れる(息を吸い込む)ことであり、異言で人々のためにとりなし祈る(息を吐き出す)ことです。「何でもあなたがたが地上でつなぐなら、それは天においてもつながれており、あなたがたが地上で解くなら、それは天においても解かれているのです。」(マタイ 18:18) 家庭や職場の問題を解く鍵はまさに祈りにあるのです。

第二番目、二人以上の心合わせた祈りです。シンポネオ(心合わせる)からシンフォニーという言葉ができました。指揮者に従って音を出すこと、一致すること、これが祈りです。御言葉に従い、交わりを持ち、心を一つにして祈る時、神様はその祈りに答えてくださり、人々は解放されていきます。ペテロが捕らえられ牢に入れられた時、教会は彼のために熱心に祈り続けていました。番兵たちが牢を監視する中、二本の鎖につながれていたペテロの前に突然主の御使いが現れ、ペテロを牢獄から連れ出しました。厳しい状況でしたが、人々の一致した祈りによって突破が起きたのです。このように、二人以上の心合わせた祈りはとても大切なのです。「もし、あなたがたのうちふたりが、どんな事でも、地上で心を一つにして祈るなら、天におられるわたしの父は、それをかなえてくださいます。」(マタイ 18:19)

第三番目、祈りのパートナーを探すことです。「ふたりでも三人でも、わたしの名において集まる所には、わたしもその中にいるからです。」(マタイ 18:20) アマレクが攻撃してきた時、モーセはヨシュアに幾人かを選びアマレクと戦うように指示しました(出エジプト 17章)。ヨシュアが戦っている間、モーセとアロンとフルは丘の頂に登り祈りました。モーセが手を上げている時イスラエルは優勢になり、手を下ろしている時はアマレクが優勢になりました。そこで、アロンとフルはモーセの手を支えて、ヨシュアはアマレクに打ち勝つことができました。そして、モーセは祭壇を築いて、それをアドナイ・ニシ(主は我が旗：勝利)と呼びました。祈る前は自分とアマレクの戦いですが、祈る時それは神様とアマレクの戦いになります。また、モーセを支えたアロンとフルのように、私たちには祈るパートナーが必要です。一人で祈るなら千を打ち取り、二人で祈るなら万を打ち取ります(申命記 32:30)。モーセとアロンとフルが祈り、ヨシュアは戦いました。私たちが共に祈るなら、神様は代々にアマレク(敵)と戦ってください。「もしひとりなら、打ち負かされても、ふたりなら立ち向かえる。三つ撚りの糸は簡単には切れない。」(伝道者の書 4:2) アーメン！